



幸手市立行幸小学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標
自ら学ぶ子
明るくやさしい子
元気にやりぬく子

学校研修課題

体力向上と健康の保持増進に主体的に取り組む児童の育成

～「できるようになった」「のびた」「かわった」

を実感できる指導方法の工夫～

本年度の重点

- 1 主体的・対話的で深い学びの推進
- 2 健康の保持増進と体力の向上
- 3 目標達成に向け、やりぬく力の育成

目標達成の指針

- 1 全国学力・学習状況調査 平均正答数
- 2 埼玉県学力・学習状況調査 学力が伸びた児童の割合
- 3 幸手市統一学力調査 平均正答率
- 4 家庭学習 学年の目標時間を達成した児童の割合
- 5 タブレットタイム等を活かしたタイピングスキルの向上（学年に応じて）
- 6 算数プリント100枚またはドリルパーク100問達成児童の割合

子ども一人一人のよさを見つけ伸ばす教育の推進

学校の共通行動

❁ 「笑顔でやりぬく みゆきっ子」の育成

児童が自分や集団の目標達成に向かって取り組む姿勢を励まし、称賛する。その中で「やりぬいた」達成感を味わわせ、新たな挑戦への意欲へつなげる。

❁ 児童の実態把握

児童の日常的な姿や各種調査（学力・体力）等を分析し、実態把握に努める。そして、分析結果等を基に指導・支援を行い、一人一人を伸ばす教育を推進する。

❁ 他者を尊重する児童の育成

道徳科の授業の充実を図るとともに、体験活動の計画的な実施や自主的・実践的な特別活動を行う中で、児童の心を豊かにし、他者とともに学ぶことを楽しむ児童を育成する。

❁ 教育相談体制の充実

全教職員でみゆきっ子一人一人を育成することを大切にし、児童のよりよい成長に向け、相談、支援の充実を図る。

確かな授業実践

❁ 学ぶ喜びを実感する授業づくり

児童の気づきや発見・思考を大切に授業づくりに努め、わかる楽しさや学ぶ喜びを味わうことができるようにする。また、自己による学び・他者との学び合いを意図的に設け、学びを深めることができるようにする。

❁ 一人一台端末の効果的な活用

学習のねらい達成に向け、効果的に端末を活用する。また、活用方法を教職員が共有し合い、授業改善につなげる。

❁ 教科担当及びT・Tによる指導・支援の充実

中・高学年を中心としながら、専門性を活かした教科担当による授業を実施する。また、算数におけるT・Tを実施し、個に応じた指導・支援の充実を図る。

❁ 学び合う教職員

学校研究や校内研修等を活用し、教職員の指導力向上を図る。

授業外での取組

❁ 業前時間を活用した基礎基本の定着

曜日ごとに、以下の取組を行う。

月：朝会・集会・学びタイム（国語・算数）

火：タブレットタイム（月2回） 水：おはようタイム（体育）

木：学びタイム（国語・算数） 金：読書タイム

❁ 掲示物等の活用

各教室に児童の学びを掲示することにより、日常的に自他の学びを確認し、自らの学びに活かすことができるようにする。また、廊下や特別教室等における掲示の充実を図り、興味・関心や学びたい意欲を広げることができるようにする。

❁ プリント及び端末による算数の基礎力向上

学習内容やレベルに応じた算数プリントやドリルパークを活用し、一人一人が自らのペースで学習を進める。達成枚数等に応じた達成賞や校長賞を設定することにより意欲を高め、内容の定着を図る。

❁ 長期休業中の取組

家族・地域とともに行う活動を推奨するとともに、学習の習慣化を継続し、既習事項の復習や課題に取り組むことができるようにする。

家庭・学校間連携

❁ 家庭学習の習慣化

学年ごとに家庭学習の目標時間を設定して取り組む。教職員による学習状況の見届けを行うとともに、家庭における把握を促し、学校・家庭が協働して学習の習慣化を図る。

❁ 一人一台端末の利活用

やむを得ず登校できない児童に対し、タブレットを活用した授業配信を行う。また、家庭における宿題や学習にタブレットを活用し、一人一人が自らの段階に応じた学習を進めることができるようにする。

❁ 校区間連携

小・中学校それぞれの実態（児童生徒の様子や学習環境の違い、生活の決まりの違いなど）の相互理解を深め、9ヵ年を見通して計画的・段階的な指導を図る。そのため、年間を通じて、対面・リモートによる部会を開催する。